

自己点検・自己評価報告書

本校は教職員による自己点検・評価を実施し、その結果についてこの報告書にまとめた。

報告書の内容については、成田市内及び富里市内の県立高等学校の教職員にも開示して意見を求めた上で

外部の有識者を含む学校法人理事会及び評議員会へ報告し、承認を受けました。

注：昨年度評価より点数の変更があった場合は赤字で表示している



KONOIKE
GROUP

学校法人翔陽学園
成田航空ビジネス専門学校

平成30年4月30日作成

成田航空ビジネス専門学校

平成30年4月30日

大項目	中項目	点検の進み 具合・評価	総括・特記事項
基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像	理念・目的・育成人材像は定められているか。	4.8	理念・目的と育成すべき人材像を、わかりやすく、かつ具体的に示し、教職員・学生に周知した。
	学校の特色はなにか。	4.7	航空・ホテル・観光業界を担う事が出来る、自立し実践的な人材を育成する。1人1人の個性を見極めて、考える力とコミュニケーション能力を育てるよう指導した。
	学校の将来構想を抱いているか。	4.7	航空・ホテル・観光業界で活躍出来る実践的な人材を育てる事により、選ばれる専門学校として、社会的に認知され信頼される学校を目指した。
	全体	4.7	
基準2 学校運営	事務管理費の効率的な支出を行う。	4.1	コストパフォーマンスを検討して、より効率的な予算執行を心がけた。施設・備品の老朽化と学生数増加に対応する為、より費用対効果の高いもの、より優先度の高いものから支出した。
	各種規程類の見直しおよび整備を行う。	4.2	適宜見直したが、特に改訂を必要とする項目はなかった。
	自己点検・自己評価の確実な実施と第3者評価に対応した評価システムへのステップアップに対する準備	4.7	平成26年度から成田市内及び富里市内にある千葉県立高等学校各校に意見を求めた上で、外部学識経験者を含む評議員会・理事会へも報告して透明性を更に高めた。今後は外部評価を確立し実行する。
	全体	4.3	
基準3 教育活動	事務処理の迅速化・効率化。	4.3	必要に応じて教務ミーティングを随時行い情報共有を図った。講師会及び非常勤を含む担当講師のミーティングを随時行って、現状及び解決策について情報を共有し、共通認識を持って学生指導に取り組んだ。共通データベースを構築する事で更に情報共有を促進した。
	業務スケジュールをスタッフ間で共有し、お互いにサポート出来る体制とする。		
	英語力アップ。	4.9	学力強化の時間を利用し、学習習慣の定着を図り、低学力の学生には、学力強化の時間に補習を行った。TOEICの年間3回受験により、学生たちの学習方法の見直しの機会を増やしスコアアップにつなげた。

評価 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない

成田航空ビジネス専門学校

平成30年4月30日

大項目	中項目	点検の進み 具合・評価	総括・特記事項
	就職に役立つ各種検定・資格取得を積極的に受けるよう指導する。	4.9	各種資格試験の重要度を再評価して整理した。 校長賞・奨励賞・受験料補助を整理して受験率を向上させた。
	授業内容を強化する。	4.5	各教科の目標とシラバスを明確にして講師が共有出来るようにした。 個別指導シートを活用して担任、強化担当講師の間の情報共有を強化した。 入社試験を受験した学生たちからの報告や聞き込みで最新の出題内容を把握し、 適宜授業内容の調整を行った。 講師・学生の授業アンケート結果を適宜Feed Backし指導方法や内容を強化充実した。
	カリキュラムの内容を、コースの目標を達成する為により実践的な内容にupdateする。	4.6	研究講座、航空観光概論等の専門科目を中心に学習項目及び内容を整理した。 社会人基礎力養成講座の内容見直し、ホテル観光研究講座と航空観光概論の観光部分の相互リンクなど来年度に向けて、更に実践的な内容とするべく改善を加えた。 学生が自分で考え・発表する力を伸ばすよう、Active Learningの定着を図った。
	全体	4.7	
基準4 教育成果	資格取得率の向上が図られているか。	4.6	就職活動に役立つ各種資格のニーズを再評価し、より重要度の高いもの優先して受験をすすめた。 TOEICは必須受験回数を増やして、学生たちの意識を高めた。 また、低学力の学生にはまず英検準2級を取らせることに注力し成果をあげた。
	退学率の低減が図られているか。	4.8	1年次より担任の個別指導と学力強化の時間活用を積極的に行い指導し、 退学者を2名(3.5%)に減少させた。(平成30年度休学者はなし)
	全体	4.7	
基準5 学生支援	「平成29年度 年間計画表」に基づいて実施。	4.8	iPad/Classiを活用した教育指導が定着しつつあり、更に有効に活用する事を目指した。
	2年次担任が担当する単位取得科目を設置。	4.8	これまでの「ロングホームルーム」を「キャリア講座Ⅱ」とし担任が担当する単位取得科目とすることで、出席率をより高め、生活指導的な内容を含む指導に対する学生たちの姿勢を改めさせることができた。
	就職指導の効果的・効率的実施。	4.8	面談、進路相談を継続的に実施、学生が内面・外観共に成長出来るよう指導した。 内定後もモチベーションを高め、更に資格取得、レベルアップを目指させ、効果を上げた。
	クライアントの定期訪問と新規開拓の実施。	4.8	企業との信頼関係は良好に保てた。ナリビ生が各企業で活躍し、離職率も低い事が高く評価されているので、より本校に対する信頼が強くなっている。

成田航空ビジネス専門学校

平成30年4月30日

大項目	中項目	点検の進み 具合・評価	総括・特記事項
基準5 学生支援	就職率達成目標(100%)を目指す。	5.0	12年連続就職内定率100%達成(但し卒業生の内、就職を希望しない者を除く)
	CA合格者	4.7	平成29年度卒はANA 1名を含み計3名がCAに採用された。
	全体	4.8	
基準6 教育環境	学校を取巻く環境の変化に伴う、学校施設(教室備品等)および、規則(利用、運用規則等)等の検討整備を行う。	4.0	教育効果を向上させる為に必要な施設整備、備品の補充を行なった。 iPadをより活用する為、WiFi環境を改善した。 今後更に、より質の高い教育環境を提供出来るよう、施設、運用の改善を図る。
	全体	4.0	
基準7 学生募集と 受け入れ	専門学校の定員を確保する。	4.3	平成29年度に引き続き30年度も定員を確保出来なかった。 今後は定員確保を目指すと共に、より意欲・学力の高い学生を集める。
	オープンキャンパスは平日は随時受付、平日夜間、土曜にも開催し生徒、ご父兄の利便を優先して柔軟に対応する。	4.8	オープンキャンパスを生徒及び父兄の要望に応じ柔軟に対応し、好評であった。 実施内容を見直し、より本校の特色を簡潔にアピール出来るようにした。 開催日は各高校の行事を考慮して変更し、柔軟に対応した。
	高校内での学校説明会・留学生対象の説明会への参加	4.5	高校内説明会は重点校を中心に積極的に対応した。費用対効果の低い会場 アイダンスは絞り込んで対応し、遠隔地は資料配布で対象者の情報を入手した。
	紙媒体を減らし、ホームページ、SNSを活用する。	4.8	ホームページ・ベンダーの変更により、ホームページ、スマホサイト、Facebookと連携させて アピールした。高校生の主流であるTwitterによる情報発信も開始した。
	学校訪問のプライオリティー付け。	4.5	対象校を過去の入学実績等で区別し重点校を中心に学校訪問を行った。
全体	4.6		
基準8 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4.3	29年度も黒字を確保した。30年度も自己資金で運営資金は確保出来るものの 施設改修費用等を確保する必要がある。
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4.6	学校の財務体質を強化しつつ、品質をあげる事を目指して年度予算を作成している。 学校会計基準に従い財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
	全体	4.5	

評価 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない

成田航空ビジネス専門学校

平成30年4月30日

大項目	中項目	点検の進み 具合・評価	総括・特記事項
基準9 法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.8	法令、設置基準に係わる事例はなく、適正に運営された。
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4.7	個人情報を取り扱う部署に対する教育・指導を実施し、情報漏えいは発生しなかった。
	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	4.6	教職員による自己点検・自己評価を行い、成田・富里市内の県立高校教職員に意見を求めた上で、外部の学識経験者を含む学校法人評議員会及び理事会へも報告し承認を受けた。
	自己点検・自己評価結果を公開しているか。	4.8	自己点検・自己評価の結果をホームページで公表している。
	全体	4.7	
基準10 社会貢献	地域の行事に積極的に参加し、活性化に寄与すると共に学生に社会との関わりを認識させる。	4.7	成田の3大行事(太鼓祭り、祇園祭り、御利生祭)並びに地元行事(公津みらい祭、公津フェスタ)に学生ボランティアとして参加させ、社会性を学ばせ、地域社会への貢献を実践した。 学生が主体的に動くようにも工夫した。
	英会話教室等を開設し、国際人を育てる事に貢献すると共に、企業等に対してもマナー教育、語学研修等を行い社会貢献しているか。	4.7	英会話は各種短期コースを開催して個別のニーズに答えた会員拡大を目指した。企業研修にも積極的に取り込み、地元の名店「なごみの米屋」の研修を継続した事に加えNAA(成田国際空港株式会社)グループ企業のCS研修を受注して、成田空港におけるCS向上にも貢献した。 今年度はNAA Ramp Controller英語研修に加え、ICAO Level-4 Listening test音源作成も受注した。
	全体	4.7	

評価 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない

自己評価における特記事項

自己評価は学校経営目標・運営実施目標に基づく業務実施計画書に年度達成目標が、どの程度達成されているかを分野別に抜粋したものです。

※別添資料1 専門学校学生数の推移

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入学生	41	79	84	81	76	58	60
進級者	41	35	70	70	77	65	60
在籍数	82	114	154	151	153	123	120

復学者4名を含む

※別添資料2 平成29年度卒業生就職先

CA		1	中国国際航空	1
	AIR DO	1		
			小計	3
GS	ANA成田エアポートサービス	4	日本レストラン	6
	ANAスカイビルサービス	3	成田空港振興協会	1
	JALスカイ	4	NAAリテリング	1
	JALナビア	1	羽田エアポートエンタープライズ	2
	空港ターミナルサービス(ATS)	5	リムジン パッセンジャー サービス	2
	Kスカイ	1	日本通運(東北総代理店)	1
	ジェイエスエス	3		
			小計	34
AC	ANAエアポート サービス	2	国際空港上屋(IACT)	1
	ANAケーティングサービス	3	阪急阪神ロジパートナー	1
	JALグラントサービス	1	羽田空港サービス	1
	JALカーゴサービス	3	日本トラフィックサービス	1
	NCAジャパン	1		
			小計	14
HT	日本ホテル	4	ハイアットリージェンシー東京	1
	ウェスティンホテル東京	3	マハイナウェルネスリゾートオキナワ	1
	森ビルホスピタリティ	1	強羅花壇	1
	ハイアットリージェンシー東京	1	赤坂エクセルホテル東急	1
	グランベルホテル	1		
			小計	14
その他	アルコパレーノ	1	アウトソーシング	1
			小計	2
合 計				67

※別添資料3

資 格		28年度生	29年度生	
英語	TOEIC	700以上	5 6%	9 12%
		600-695	12 16%	9 12%
		500-595	15 19%	12 16%
		400-495	18 23%	9 12%
		395以下	15 19%	17 22%
	英検	2級	16 21%	20 26%
	準2級以上	25 32%	27 36%	
中国語		2級	1 1%	0%
		4級	2 3%	0%
		準4級	14 18%	7 9%
韓国語	TOPIK	初級	5 6%	0%
		中級	1 1%	0%
		上級	1 1%	0%
日本語(留学生対象)		1級	1 33%	3 50%
PC	PC II 種	1級	0%	0%
		2級	7 9%	3 4%
		3級	2 3%	6 8%
	Amadeus	EXP	8 10%	1 1%
		SPL	27 35%	20 26%
サービス	サービス接遇検定準1級		0%	0%
	2級		4 5%	4 5%
	ホテル実務 Basic 2級		2 3%	2 3%
	日赤救急法		60 78%	18 24%
	アソシエイトホスピタリティ		9 12%	3 4%
	サービス介助士		62 81%	36 47%
IATA DIPLOMA		1 1%	0%	

※別添資料4

収益事業会員数(年度末実働数)

	26年度	27年度	28年度	29年度
合計	485	515	536	537
幼児	112	96	78	74
小学生	224	252	291	272
中・高生	60	70	69	96
成人	69	95	98	95